A1 7日(金) 15:00—16:15

分身ロボット「OriHime」の衝撃

あなたは寝たきりになったとき、何がしたいですか？
今の社会に、その選択肢はあまりありません。しかし、分身ロボットを使った「肉体労働を可能にするテレワーク」があれば、商品の説明やオーダー、配膳の仕事だって可能です。自分の身体を、ロボット自ら介護する未来だってあり得ます。今回は分身ロボット「OriHime」開発者の吉藤オリィさん、ALS患者で当事者として開発に関わった岡部宏生さんをお呼びし、その先にある未来の社会や、当事者からみた意義をお話いただきます。（御代田太一）

A1 7日(金) 17:35—18:50

医療的ケアを必要とする人への支援の最前線

実践の話をしよう。「医療的ケア児等コーディネーター」の配置や「協議の場」の設置が求められていますが、一体どこまでできていて、現実の実践とどう結びついているのでしょう。本フォーラムで「医療的ケア」をテーマに掲げて4回目となる今回は、先駆的に取り組んでいる地域の実践をご紹介します。その最先端の実践の今にもきっとプロセスがあります。そのプロセスを紐解いて、明日から取り組む支援と初めの一歩を踏み出すヒントになるようなセッションを行います。（丹羽彩文）

A2 7日(金) 15:00—17:00

場を育むためのリフレクティング

現場での対話を阻んでいるものに気づき、新しい体験を生み出す取り組みです。矢原さんは精神医療や刑事施設での取り組みを進めている方です。近年、オープンダイアローグが紹介されるなかで、ミーティングの形式、技法と矮小化して捉えられがちなリフレクティングが本来もっているパースペクティヴの広さ、深さについて、トム・アンデルセンとその仲間たちの精神医療、刑事施設等における具体的な取り組みを通して触れるとともに、現在の日本の各々の文脈において、どのような実践が可能か参加者の皆さんとお話しできれば幸いです。（末安民生）

A2 7日(金) 17:45—19:00

「多様性」の次のステージへ

これまでタブー視されてきた社会的テーマを「バラエティ」というかたちで軽やかに切り込み、度々お茶の間を騒がせてきた「バリバラ」。「障害」を皮切りにありとあらゆる「生きづらさ」を多様なゲストと語り尽くしてきたアーカイブを参考にしながら、番組コメンテーター、プロデューサー、政治家がオープンに語りあう「もうひとつのバリバラ」を披露する。（アサダワタル）

A3 7日(金) 15:00—19:00

行動障害のある人の支援を学び直すⅠ

～強度行動障害支援集中講義～

昨年行った「行動障害について学び直す集中講義」。おかげさまで大変好評をいただきました。今年は「児童期の支援」も取り上げます。行動障害の背景には、子どもの頃の関わりが大きく影響すると言われています。児童発達支援や放課後等デイサービスの現場では、学校をはじめとした教育機関との連携が言われています。家庭で学校で、そして福祉サービスの現場で大切にしたい行動の背景と支援のポイントを一緒に学び直しましょう。（福島龍三郎）

15:00～16:00
基調講座　自閉症スペクトラムを正しく理解する
～『すずちゃんののうみそ』のこと～
宇野洋太（よこはま発達クリニック・児童精神科医）

16:00～17:00
講 座１　理解をうながす支援
豊田和浩（(特非)ゆう）

17:00～18:00
講 座２　コミュニケーションをうながす関わり
種村祐太（(特非)発達障害サポートセンターピュア）

18:00～19:00
講 座３　子どもの育ちを家族と支える
肥後祥治（鹿児島大学教育学部教授）

B4 7日(金) 22:00—24:00

グループだからできること、できないこと

対人援助のグループには目的と課題があります。目的を達成するためにメンバーは一致団結し、目覚ましい成果をあげることもあれば、反対に仲間割れが生じてひどい失敗に終わることもあります。このセッションではグループの活動の裏で起きるさまざまな人間関係の渦巻きをうまく活用していけるためにグループのプロセスに注目し、ポジティブなかたちで活かしていけるような相互の体験を目指します。(参加者にはこのセッションでの語り合いを外部に漏らさないというルールに従っていただきます。)（末安民生）

B5 7日(金) 21:00—24:00

行動障害のある人の支援を学び直すⅡ

行動障害の人を支援する上で重要な３つの視点について考えます。「行動の背景を捉え支援につなげるアセスメントの視点」「チームで支援に取り組むチーム作りの視点」「家族や関係機関と連携して地域で支える視点」です。この３つの視点について、それぞれの実践を通じて考えるゼミナールです。ワークショップでは、３つの視点から興味のあるワークに参加していただきます。経験豊かなファシリテーターと一緒に、現場づくりのヒントを共有しましょう。（福島龍三郎）

次の１歩を踏み出すためのワークショップ
行動障害の人を支えるシステム作り
～行動の背景を考える、チームで支える、地域で支える～
ファシリテーター：竹矢恒（(社福)同愛会日の出福祉園）
服部敏寛（(社福)三富福祉会サポートセンターハロハロ）
山根和史（(社福)北摂杉の子会アクトおおさか）
進行：肥後祥治（鹿児島大学）福島龍三郎（全国地域生活支援ネットワーク）

C1 8日(土) 8:30—9:40

地域生活支援にまじめに取り組んできたら‥‥経営が苦しくなりました！

国の示す施策の方向に沿って頑張ったら、経営が苦しくなった？！入所施設から地域へ！支援拠点の整備！強度行動障害への支援！‥その他、日中サービス型ＧＨや自立生活援助の創設など、国の示す施策は一貫して障害のある人の地域生活支援です。が、実際の運営はどうなっているのでしょうか？？全国のトップランナーから実態をお聞きします。地域生活支援をちゃんとやっているのに経営が厳しくなったと感じる人、全員集合！（又村あおい）

C2 8日(土) 8:30—10:00

「老い」をズラしてヒラく場づくり

演劇と介護福祉のハザマから生まれ、注目される岡山の劇団「老いと演劇」OiBokkeShi。医者とまちづくり関係者が協働して、地域住民のつながりと健康増進を目指した映画づくりなどを行う「谷根千まちばの健康プロジェクト（まちけん）」。福島県いわき市の地域包括ケア推進課が発行する、異色の福祉メディア「igoku」。「老い」や「病い」を代表とする人の「弱さ」をズラして新たな地平に開くために必要な、「アートな発想・感性」について学び合う。（アサダワタル）

C2 8日(土) 10:00—11:45

人生のしまい方、日々のえらび方

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと意思決定能力の低下に備え、予め、繰り返し話し合うACP(Advance Care Planning)。人生会議は公募で選ばれたACPの愛称です。高齢者分野で先行している、いのちの終わりに関わる意思決定の一つの方法と、障害分野において進められている意思決定支援について、それぞれの実践例を基に、どちらの施策にも関わりをもつ曽根直樹さんのナビゲートで考えます。（田端一恵）

D1 8日(土) 16:00—18:20

この国の未来がなくなる？子どもの支援を本気で考えよう

地域コミュニティが崩壊していく中で、子育て家庭はますます孤立を深めつつある。このセッションでは、社会的養護をはじめとした子どもたちへの支援を長く実践してこられた潮谷義子先生と、近々児童相談所を設置し子ども子育て家庭に対する支援施策を市内に一元化される明石市・泉市長を迎え、母子保健から子ども子育て支援、障害児者支援、社会的養護、学校教育を含め、子育て家庭を包括的に支援するための体制整備について、これら分野の現場の実践者とともに展望する。
（藤井康弘）

D1 8日(土) 18:20—19:30

これからの障害当事者スタイル

障害当事者運動や自立生活運動による障害当事者の声や働きかけが、この社会の問題を顕在化させ、解決に向けた動きに繋がり、制度化を進めてきた歴史があります。一方でこうした「障害のある人のための／障害のある人による」運動ではなく、「障害のある人からの」ユニークな発信をする方々も出てきています。そうした発信は、障害のある人が自ら、自分たちにとって楽しいこと、必要なことはこういうことだということを示し、社会の人たちを共感とともに巻き込んでいく新しいスタイルにも見えます。このような発信をしている方々と、「これからの障害当事者スタイルというようなこと」を語り合ってみます。（田端一恵）

D2 8日(土) 15:00—16:00

女性が輝く？女性活躍？ちょっとだけ喋ります、私たち

「女性が輝く社会」という言葉をあちらこちらで目にし、女性活躍推進法は2019年に改正法も施行されました。一方で、これらの言葉に負担や収まりの悪さを感じる女性や、「どうしたものか…」と敬遠したくなっている男性がいるのも実際でしょう。また、女性、男性という分け方で考えること自体に疑問を持つ方もいるかもしれません。
このセッションは、こうした話を、厚労省のキャリアから最高裁判所判事まで務めた方、女性中心で運営している精神障害のある女性たちのためのB型事業所の理事長に、女性だけで運営している会社の会長があれこれお聞きします。立派な肩書を持つ皆さんですが、快活さと親しみやすさも抜群の彼女たちの話は、おもしろいこと間違いなし！
（田端一恵）

D2 8日(土) 16:00—19:00

よくぞ立ち上げてくれました！「全国居住支援法人協議会」

言うまでもありませんが、住まいが無いと人の暮らしは成り立ちません。しかし、高齢単身世帯の増加や若年層収入の減少など、社会情勢の変化により住まいの確保が困難な人たちが増えています。一方で、空き家、空き室数はこの20年で1.8倍に増加しています。これらの課題解消に向け、2017年に改正された「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（住宅セーフティネット法）」により規定された居住支援法人。今年、その全国組織が立ち上がりました。居住支援ネットワークの拡がりに期待しつつ、人が家に住むことについてもう一度考えてみます。（齋藤誠一）

D2 8日(土) 16:00—

解決を求めない伴走型支援の充実を

地域共生社会の議論が進んでいます。その中で「断らない相談」がテーマとなっています。そんなこと言って大丈夫でしょうか。そこで、今後の支援論の「課題解決型の支援」と「伴走型の支援」が「支援の両輪」と考えられます。解決を求めない！？伴走型支援とは？一緒に考えましょう。（奥田知志）

E1 8日(土) 21:00—22:45

私たちは「C型就労」を進めます！！

今年もまた、ようこそ。就労継続Ｃ型のセッションへ。
一昨年から継続的に「Ｃ型」のセッションを展開した結果、福祉のトレンドワードである「地域共生社会」を具現化する取組みとしても就労継続Ｃ型が注目されるようになってきました。
今回は、改めて「Ｃ型とは何か」を提唱者である岩上さんからお聞きして、全国から寄せられた実践を共有しましょう。きっと、また新しい発見がありますよ。
（又村あおい）

F1 9日(日) 8:30—10:00

世界の栄養課題の変わり目を日本がリード

「障害のある人の食」では、科学と実践を両輪として、世界に先駆け、日本で取り組みが始まりました。厚生労働省科学研究も進んでいます。また、2020年に国際栄養サミットが開催されます。
そこでは、日本がどのように栄養改善に取り組んできたか、そのサクセスストーリーが、世界に向けたメッセージとして発信されます。私たちもこれらに共感し、多職種が連携して、「障害のある人の食」に関する科学と実践を社会に広げていきます。今回のシンポジウムでは、その取り組みの一部を、ご報告します。
（井上瑞菜）

F3 9日(日) 8:30—11:20

変わる精神科医療

医療や薬に過度に期待したり、逆に過度に敬遠したりしていませんか？医療者の上手い使い方教えます。
医療と福祉、双方の得意分野を知ってお互いがhappyになりたいですよね。精神科病院も若い院長先生達の登場で大きく変わってきています。
地域に開かれた病院の取り組みや停滞していた認知症対応病棟を改革した若き精神科医が語る眼から鱗の取り組み。きっと精神科病院の敷居が低くなります。そして、治療を受けたり支援を受けるだけじゃない！当事者だからこそ語れることがある。弱みを強みにして活躍する皆さんに登壇頂きます。
（田島光浩）

B3 D3 コンベンションホール淡海 7

演劇「バリアフリー版ヘレン・ケラー」を観よう

7日(金)　21:00～24:00

21:00～23:00 公演『ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち』

23:00～ 演劇鑑賞後のアフタートーク **娯楽や芸術をみんなが共有できる社会に**

浅野佳成（東京演劇集団風 芸術監督）　北岡賢剛（バリアフリー演劇企画者）
衛藤晟一（参議院議員）　高木美智代（衆議院議員）　古川康（衆議院議員）
山本ひろし（参議院議員）　嘉田由紀子（参議院議員）
聞き手：山上徹二郎（バリアフリー演劇プロデューサー）

8日(土)　13:30～16:30

13:30～15:30 公演『ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち』

15:30～ 演劇鑑賞後のアフタートーク **バリアフリー演劇を制作して**

渋谷愛（東京演劇集団風 役者）　山上庄子（バリアフリー担当責任者）
大河内直之（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）
廣川麻子（シアター・アクセシビリティー・ネットワーク理事長）
杉浦久弘（文化庁審議官）　野村知司（厚生労働省障害保健福祉部企画課課長）

自分らしい明日を探している全ての人へ── 東京演劇集団 風

この新しいバリアフリー演劇の試みは、2018年より始まりました。耳が聞こえない、また聞こえにくい聴覚障害者向けに、背景のスクリーン上に字幕を表示し、舞台上では舞台手話通訳者が俳優と同化した動きで舞台表現を補う形をとります。また、目が見えない見えにくい視覚障害者向けには、音声ガイドをオープンで会場に流し、物語の進行を創造的に補う方法で情報保障を行います。バリアフリー演劇の試みはまだ始まったばかりです。演劇における「バリアフリー」という言葉には、何より私たちの感性を解き放つという意味が込められています。皆さま、新しい風が運んでくる舞台をお楽しみください。

E3 コンベンションホール淡海 10

きたやまおさむ（精神科医・作詞家）CD/レコードコンサート 歌を聴きながら考える

8日(土)
20:00～21:30

音楽は人生にとって欠かすことのできないものです。このセッションでは、私にとって歌とはどの様なものなのか、心の健康にとって、どうして音楽が大切なのかということについて、お話しをしたいと思います。私に関わる、歌を聞きながら・・・・・・。
（きたやまおさむ）

9日(日) コンベンションホール淡海10

アール・ブリュット ネットワークフォーラム2020 主催：滋賀県

時代ごとの社会の動きがアール・ブリュットをめぐる状況にどのような影響を与えたのか、2020年に東京藝術大学大学美術館にて開催予定の展覧会「人知れず表現し続ける者たち（仮称）」の話を含めて、青柳会長、秋元館長や太下氏からお話いただくほか、アール・ブリュット前史としての滋賀県信楽町での汽車土瓶の生産や、その後の県内の福祉施設での造形活動が社会の影響を受けて、どのように発展したのかについて、２つのセッションを実施します。

10:00【セッション１】（仮）時代とアール・ブリュット
青柳正規（前文化庁長官、山梨県立美術館 館長）
秋元雄史（東京藝術大学大学美術館 館長）
太下義之（文化政策研究者、独立行政法人国立美術館 理事）

11:40【セッション２】（仮）滋賀における造形活動の展開
畑中英二（京都市立芸術大学教授、元滋賀県文化財保護協会職員）
滋賀県立近代美術館学芸員

7日(金) 本館２F 伊吹 他

糸賀一雄記念財団による「共生社会フォーラム」の取り組み

当財団は、障害をはじめ生きづらさのある人たちが、個人として尊重され幸せを感じながら、地域の皆さんと共に暮らすことができる社会づくりの一助となるよう、日本の福祉の礎を築いた先人による実践と思想の普及啓発を進めています。2月7日(金)に2019年度共生社会フォーラム・全体フォーラム（主催：厚生労働省）をアメニティーフォーラム24と連携して開催します。参加費は無料ですので、是非、ご参加ください。

10:30～11:45	講演＆上映（比叡にて）	先人の実践と思想を学ぶ 「NHKラストメッセージ・この子らを世の光に」
12:50～14:50	シンポジウムと講演	共生社会がめざすもの 「命が大切であると、を言い切る～生産性よりも必要性！～」 「このフォーラムに集う人たちへのメッセージ」
15:00～16:45	表現活動の鑑賞	共生社会・多文化共生をテーマとする2020年日本博イベント
17:00～19:00	交流集会（伊吹にて）	全国の「福祉支援語り部」による実践報告・交流集会

詳細は、財団ＨＰ（http://www.itogazaidan.jp/）をご覧ください。

第24回アメニティーフォーラムのプログラムを、以下のメンバーで協力をしながら作成しました。このメンバーで、皆さんのご参加をお待ち申し上げます。

アサダワタル／浅野佳成／井上瑞菜／岩上洋一／牛谷正人／大原裕介／大平眞太郎／岡山慶子／奥田知志／岡部浩之／小田泰久／尾上浩二／かしわてつ（〈NPO〉ハイテンション理事長）／片岡保憲／北岡賢剛
小室等（音楽家）／齋藤誠一（〈社福〉グロー（GLOW）救護施設（ひのたに）園長）／坂野健一郎（新潟県アール・ブリュット・サポートセンター長）／下里晴朗（〈NPO〉エンジョイ・パートナーほっと 代表理事）／末安民生／瀬古隆（〈財団〉糸賀一雄記念財団専務理事）
曽根直樹／竹嶋信洋／瀧澤聡／田島光浩／田島良昭／田端一恵／田中正博／玉木幸則／辻哲夫／水流源彦／中野豊（〈NPO〉国際交流事業機構代表）／西川賢司／丹羽彩文／野澤和弘／林晃弘／平下耕三
福島龍三郎／藤井康弘／宮奥進（〈株〉中西興産・ISAトラベル代表）／又村あおい／御代田太一／渡邉芳樹／山上庄子／山上徹二郎　（五十音順）